

恵 山

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山は静穏な状態です。

○ 概況

- ・ 熱活動、噴煙活動（図 3、図 4）

8～10 日に実施した調査観測では、噴気や火口の状況に変化はありませんでした。

- ・ 地震活動（表 1、図 5）

火山性地震は 1 日当たり 0～3 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で推移しています。火山性微動は観測されませんでした。



図 1 恵山 山頂ドーム付近の状況（2006 年 11 月 6 日 西側の展望台から撮影）

○ 熱活動の状況

8～10 日に行った現地調査では、X 火口・Y 火口および周辺の地熱地帯の状況に変化はありませんでした。

【X 火口】

火口底の複数の噴気孔から白色の噴気を勢いよく噴出していました。噴気には弱い二酸化硫黄臭（刺激臭）が認められました。噴気温度は 100～150℃前後（サーミスタ温度計*）で、前回（昨年 11 月）と比べ変化ありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、火口底の活発な各噴気孔に対応した高温域が認められましたが、高温域の拡大や新たな地熱域などは見られず、大きな変化はありませんでした。

*サーミスタ温度計はセンサーを直接熱源に当てて温度を測定する測器です。一方、赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

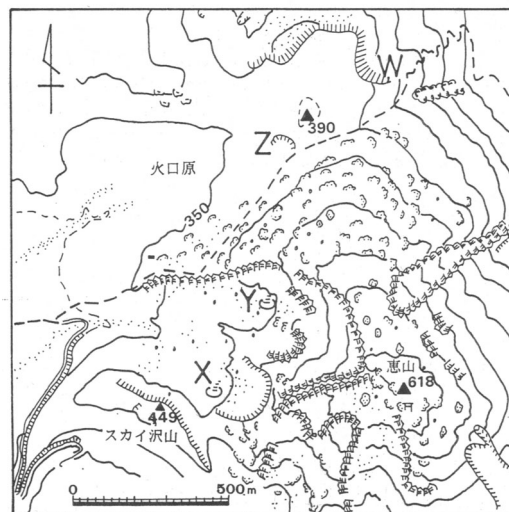


図 2 恵山 山頂周辺図

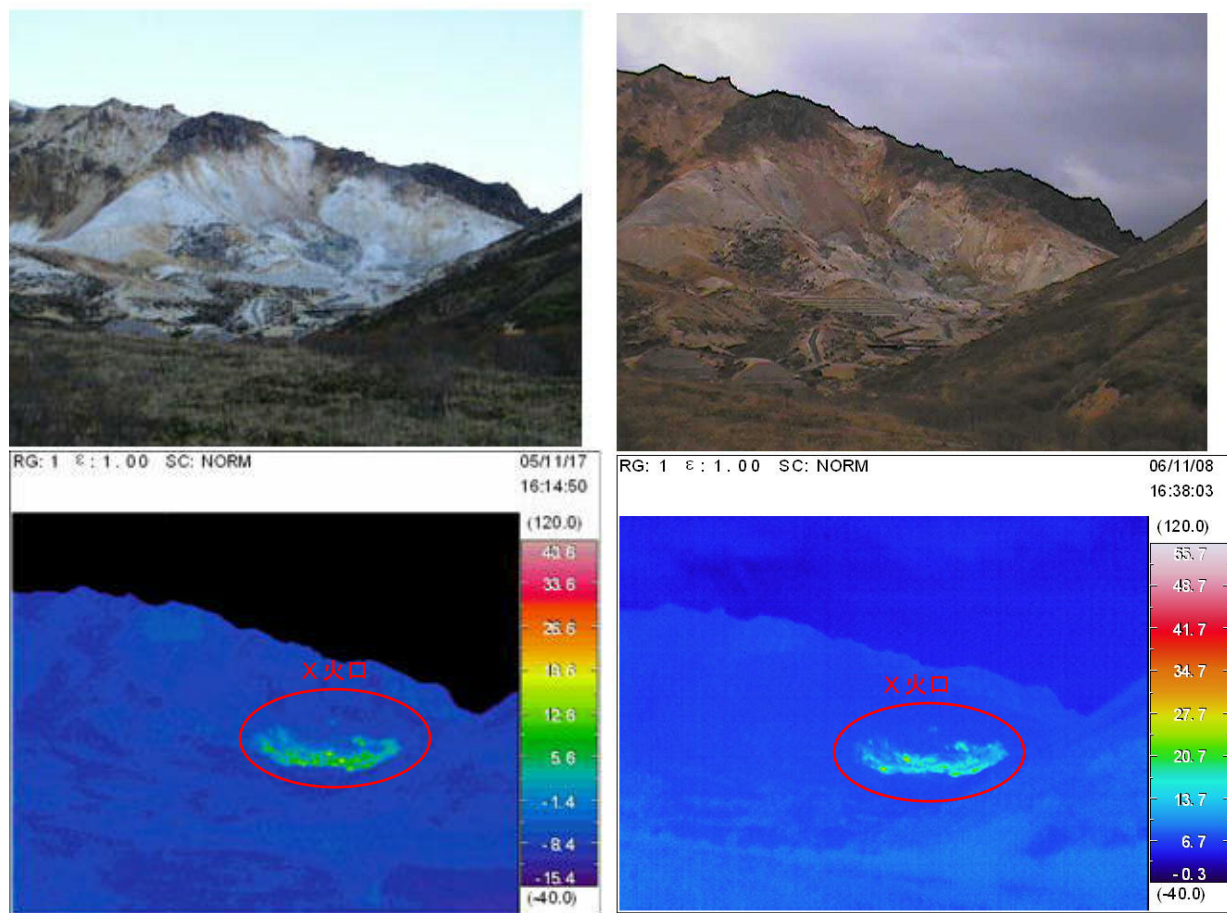


図3 恵山 赤外熱映像装置によるX火口の表面温度分布（西側から撮影）

（左：2005年11月17日 右：2006年11月8日）

【Y火口】

火口底および東側火口壁の複数の噴気孔から、やや強い二酸化硫黄臭（刺激臭）を伴う白色の噴気を勢いよく噴出していました。火口底の噴気温度は 130℃ 前後、東側火口壁は約 200℃（サーミスタ温度計*）で前回（昨年 11 月）と比べ変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、東側火口壁中段および上段の活発な噴気孔に対応した高温域が認められましたが、高温域の拡大や新たな地熱域などは認められませんでした。

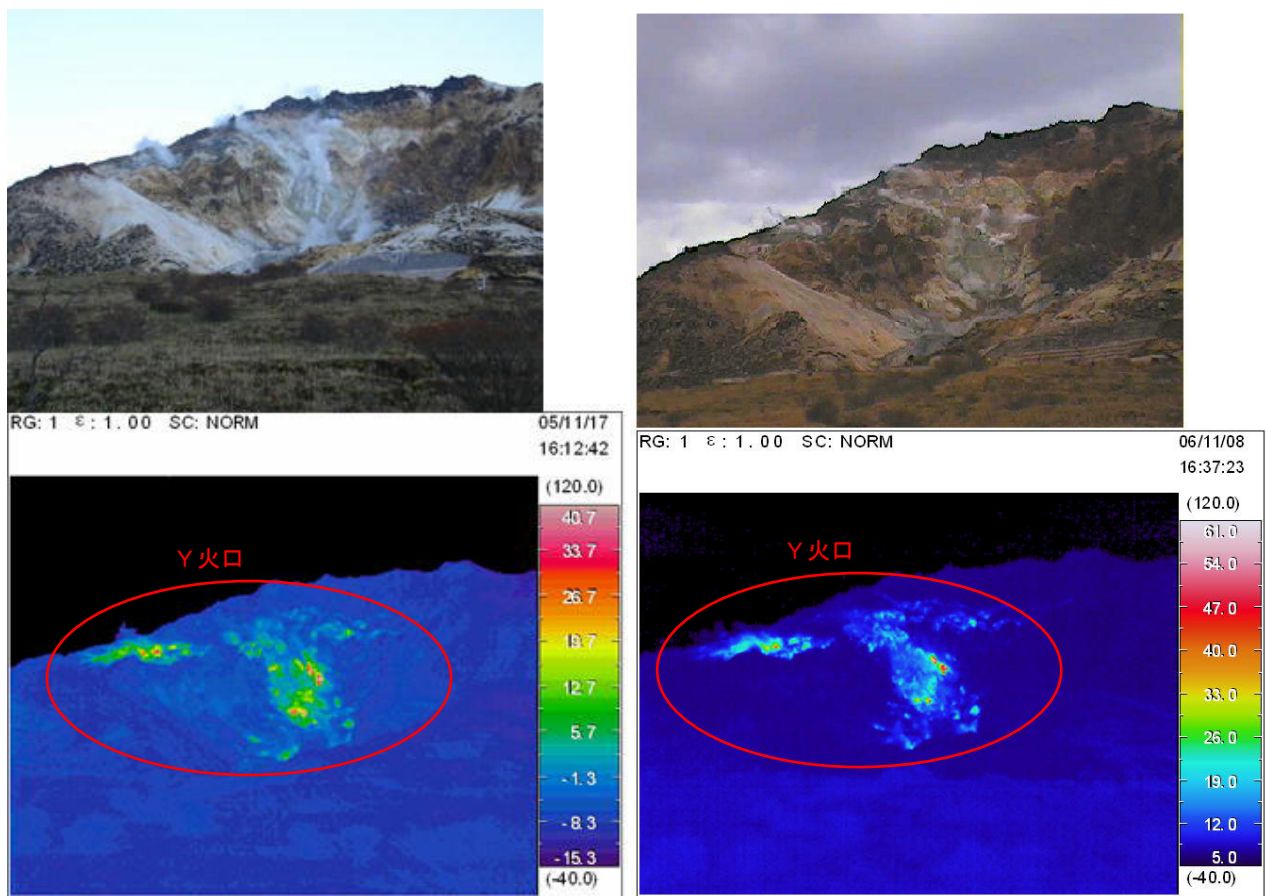


図4 恵山 赤外熱映像装置によるY火口の表面温度分布（西側から撮影）
（左：2005年11月17日 右：2006年11月8日）

表 1 恵山 地震・微動の月回数（ドーム北）

2005～2006 年	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
地震回数	41	16	21	20	13	17	7	11	19	47	16	16
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

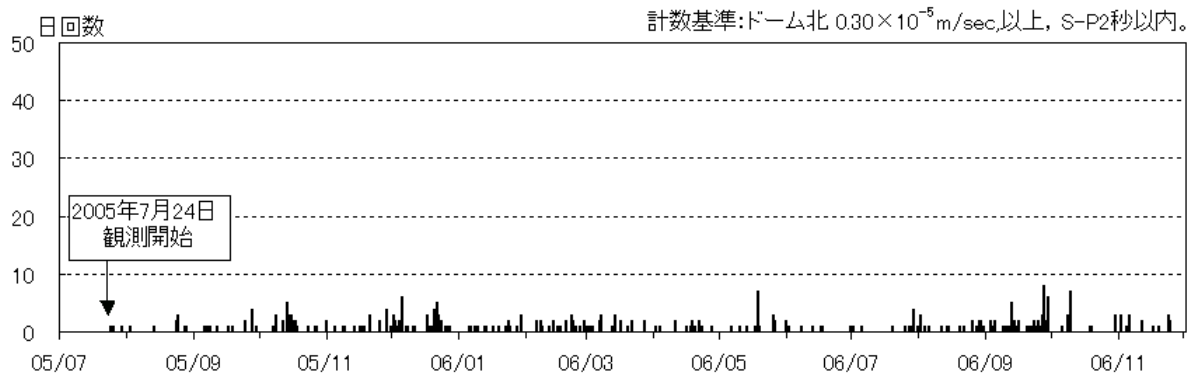


図 5 恵山 日別地震回数（2005 年 7 月 24 日～2006 年 11 月 30 日）

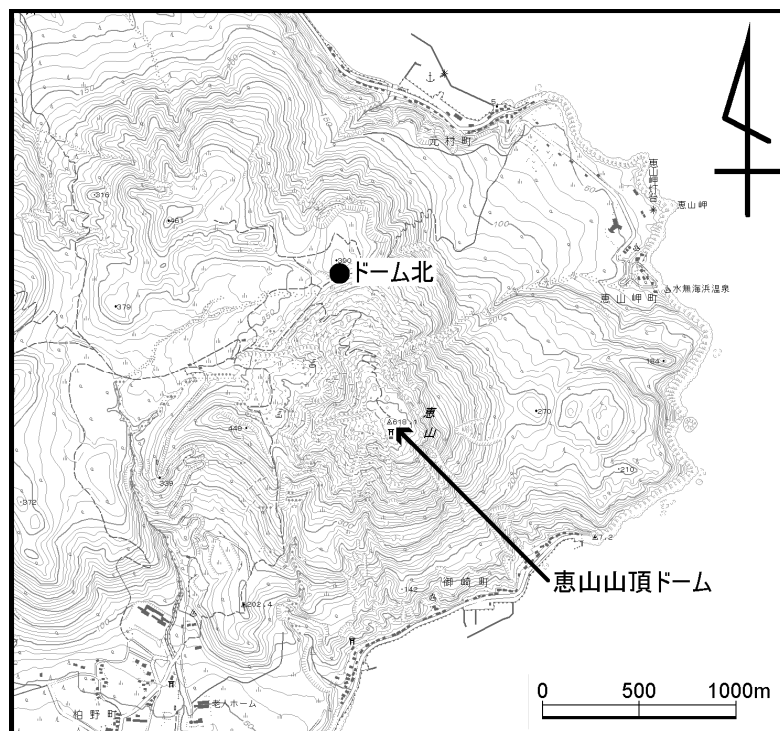


図 6 恵山 地震計配置図（図中●）